

曰奚邪勿、藥羅葛回紇姓也、與僕骨・渾・拔野古・同羅・思結・契苾六種相等夷、不列於數、後破有拔悉密・葛邏祿、總十一姓、並置都督、號十一部落、自是戰常以二客部爲先鋒、

と記せり、されば九姓回鶻なる名稱は、回鶻が此等の九姓より成立したるが爲に稱へられたるものに外ならずとは、普通に認めらるゝ所なりとす、抑も此の名稱の最も早く見ゆるものは、余輩の知る所を以てすれば、冊府元龜^{卷九}七朝貢篇に「天寶十載十月辛未、九姓回鶻首領伊難知來朝」と記さるゝものなるが如く、ついでは其の十三載四月の條にも「九姓回紇……遣使朝貢」と見ゆ、而して之より後は、九姓なる名は回鶻に對して最も普通に冠せられ、彼の外蒙古 Orkhon 河谷の Kara Balgassun に存する回鶻可汗紀功碑にも、題して「九姓回鶻□愛登里囉汨沒蜜施合毗伽可汗聖女神武碑」と記し、冊府元龜^{卷九}六五封册篇にも、此の碑文の題名に見ゆる可汗に當るものに對して「元和三年五月……命使册九姓回鶻可汗、爲愛登里囉汨沒蜜施合毗伽保義可汗」と記せり、其の他大曆十二年十月、追贈九姓回紇宰相曹蜜粟亡妻石氏、爲岷國夫人（冊府元龜^{卷九}七六褒異篇）、德宗貞元六年十二月丙申詔九姓回鶻登里囉沒蜜施俱錄忠貞毗伽可汗薨、廢朝三日（^{同上}）、また舊唐書本紀貞元十一年の條には懷信可汗に對し、冊府元龜^{卷九}六五封册篇には昭禮可汗、彰信可汗に對し、何れもみな九姓回鶻……可汗と稱せり、されば此の名稱を以て、回鶻が前記の九姓部落より成りしが爲に、若しくは回鶻が此等の九姓部落の地を占め、之を統一したるが爲に起れる名なりとするは、史上の事實と能く一致するものなるが如し。

然りと雖此の名稱に就きては、從來學者の注意せざりしが如くにして、然も極めて明らかに之が説明を施せるものゝ別に存するあり、唐會要の記事は即ち之なり、同書^{卷九}十八回紇の項によれば